

大沢ゆたかの一般質問

1 ハウジングファースト ～住宅こそ福祉施策の原点

大沢 都営住宅や市営住宅は希望者が殺到して入居が難しく、今後増加する住宅確保要配慮高齢者に対応できません。民間住宅との格差もありますが、市の今後の住宅政策は？

立川市 民間空き家の活用は、所有者の財産上の位置づけや権利関係などの課題もあり、単に公営住宅を補完する活用はなじまない。今後、ストックとしてどのように活用できるのか研究してみたい。

大沢 戸田市の職員が作成した調査研究報告書では、市営住宅を新築すると経費回収に約 50 年かかり建設中に待機者も増えるが、家賃補助制度なら経費は2分の1程度で即効性もあると分析しています。公営住宅に入れない人たちの不公平感もあります。検討しませんか。

立川市 国・東京都・立川市の役割のあり方、住宅福祉等の役割分担等々複層的に考える必要があります。市の公営住宅は増やさない考えです。

2 「障害者差別禁止条例」 ていねいな市民参加でつくろう

大沢 昨年12月議会で「障害者差別禁止条例」の請願を全会一致で採択しました。全市民の参加で、全市民が障害者の差別とはどういうものかを理解しながら条例をつくっていくことが必要です。どのように進めるのですか。障害者手帳を持っていない人も対象になりますか。

立川市 障害の当事者、教育、交通事業者、商工会議所、公募市民、行政等で構成する策定委員会を設置し、講演会、市民周知、勉強会等ですそ野をつくり、パブリックコメント等を経て策定します。障害者に対する差別の現状、実態の把握も必要。手帳の有無にかかわらず、差別や偏見のない暮らしやすい立川をめざすものになります。



消費税アップと 国民健康保険料の値上げが 市民の大きな負担に

今議会で「国民健康保険の連続値上げの撤回を求める陳情」が出されました。大沢はこの陳情に賛成しましたが、自民党、公明党、民主系の反対で不採択となりました。

国保料の値上げがここ3年毎年のように続いています。今年は消費税もアップし、ただでさえ苦しい国民健康保険の加入者に大きな負担を強いることになり、納付できない人たちが増えることが予想されます。市の貯金である財政調整基金などを使って値上げを止めることができたはずですが。

こうした安易な値上げではなく、市民が病気にならないような健康施策を進めて、医療費を削減することも必要です。広島県呉市では人工透析が必要になる手前の段階で対象者を見つけ、予防を徹底する取り組みをし、実績をあげています。また、病気にならないような日常生活を送る健康長寿の対策も始まっています。

値上げの前に、先進市の取り組みなどを参考にして市民の健康維持にこそ努めるべきです。

任期中に審査しない
なんて、ずるい！

議会では4年を一つの単位としています。議会に出された陳情や請願は審査をしてできるだけ早く結論を出すようにするべきですが、表だって否決しにくい場合は、継続審査として、次の議会へと判断を持ち越すことがあります。今回のように、議員の任期が切れる時に継続審査にすると「審議未了廃案」となってしまいます。

今議会では「民間賃貸住宅居住者への家賃補助制度を求める請願」「原発の再稼働・輸出に反対する意見書を国へ提出することを求める陳情」など4件が審議未了廃案となってしまいます。

これも自民党、公明党、民主系が「継続審査」として、結果を出さなかったからです。議員ならば判断し、結論を出すのが筋ではないでしょうか。